マギア・ユニヴァース　ストーリー概略

・プロローグ

　人類が「ある事件」によって滅亡した世界。そこに残されたのは暁美ほむら（弓ほむら）と魔獣たちだけだった。ほむらは自分の最後を迎える場所として見滝原を選び帰ってきた。

　そこで謎の魔法少女スコノシュートと出会う。スコノシュートは無言でほむらに戦いを挑み、圧倒的な力でほむらを倒し、ほむらは意識を失ってしまう。

　よどんだ意識の中、ほむらはアルティメットまどかと出会い、「かつての仲間たちとともにあの場所にたどり着いて」と言い残しほむらをいずこかへと飛ばしてしまう。

　ほむらが気が付いた場所は、まどかと出会った頃の見滝原病院の病室だった。そしてまどかから貰ったリボンを失い、かつて自分が持っていた時間制御の魔法を持っていることに気がついた（銃ほむら）。

　驚きのまま部屋の外に出ると、まだ魔法少女になる前の美樹さやかと上条恭介の姿を見つけた。ならばまどかもいるのかと街に出て探すと、鹿目まどかと彼女を魔法少女にしようと狙うキュゥべえの姿があった。

　咄嗟にまどかを魔法少女にしないよう立ち回るほむら。そしてほむらは偶然魔女の使い魔に取りつかれていたまどかの母親鹿目詢子を助け、芸術家の魔女を倒した。このことでこの世界はかつて自分が戦っていた魔女のいる世界であることを確信するほむら。そしてこの世界ならかつて自分ができなかったまどかを守り抜くことができるのではないかと決意し、再びこの世界のまどかに出会うことと決意するのだった

・第1話

　なんでもないある日、鹿目まどかがいつものように友人の美樹さやか、志筑仁美とともに学校へ行くと、転校生の暁美ほむらを担任の早乙女和子に紹介された。

　まどかとほむらだったが、かつてアルティメットまどかになったまどかのことを思い出し、つい感情的になってしまうほむら。

　そんな二人の前に現れたのは、見滝原中学校の保険医ミッチェル・ノートルダムだった。ミッチェルの仲裁でぎこちないながらも友人になるまどかとほむら

　放課後、まどかはさやか・仁美・ほむらにほむらの歓迎会をしないかと提案した。家の用事で参加できない仁美以外の3人は、町のCD屋に移動した。そこでキュゥべえの姿を見つけたほむらは、まどかにキュゥべえが接触しないように排除することを決意するが、再びスコノシュートが乱入してきた。

　スコノシュートの相手をしている間にまどか・さやか・キュゥべえが薔薇園の魔女の結界に取り込まれてしまう。撃退しようとするほむらだったが、一瞬の隙をつかれてまどかが魔女の使い魔に襲われてしまう。

　そこで突如現れた巴マミによって、まどかは命を助けられるのだった

・第2話

　マミに助けられ、彼女から人間を襲う魔女と使い魔の存在、そして魔女が落とすグリーフシードにより魔法少女は魔力を得られるという魔法少女システムの話を聞かされるまどかとさやか。颯爽としたマミの姿にあこがれるまどかとさやかだったが、ほむらはそんな甘いものではないと釘を刺すのだった。しかし魔法少女としての戦いを知るために、まどかとさやかに魔女との戦いを見学させることを提案するマミ。ほむらはしぶしぶ承諾する。

　一方さやかは病院に行き、恭介との穏やかな時間を過ごしていた。

　そして再び薔薇園の魔女に挑むマミとほむら。圧倒的な力で魔女を退けるマミとほむらに、まどかは素直に憧れを懐くのだった。

・第3話

　いつものように恭介の見舞いに訪れるさやか。そんなさやかに恭介の腕はもう治らないと告げ、その時支えになってほしいと頭を下げる恭介の父。どうすればいいのかと悩むさやかにミッチェルは、相談できる人に相談しなさいとアドバイスをする

　さやかは自分が魔法少女になることで恭介を救えると考えるが、ほむらにもしあなたが戦死でもしようものなら彼を絶望に落とすだけだと厳しく返すほむら。

　そして恭介は自分の腕がもう治らないと知り自暴自棄になりさやかに当たり散らしてしまう。自分は恭介のために何もしてあげられないと打ちひしがれるさやか。そんな恭介とさやかをお菓子の魔女の使い魔が二人を魔女の結界に取り込んでしまう。

　救出に向かうまどか・ほむら・マミ。なんとかさやかと恭介を確保するが、マミが大怪我をしてやられてしまう。窮地に立たされるほむらたちを救ったのはスコノシュートだった。なし崩し的に共闘関係となり、お菓子の魔女を撃破するほむらとスコノシュート。マミを死なせなかったことは良かったが、さやかを見て悪い予感が拭えないほむらだった

・第4話

　お菓子の魔女を撃破したのは良かったが、マミは怪我のせいでしばらくは動けない状態になってしまった。そしてさやかは恭介を救おうと頑張っていたことが何も彼のためになっていなかったと知り、ある決意をするのだった

　そんなさやかの決意を察したほむらはまどかに魔法少女は生きながら死んでいる存在であること、そして魔女は魔法少女のなれの果てであることを教えた

　ショックを受けつつも、さやかを魔法少女にさせないためにさやかを探そうとするまどかとほむらの前に、スコノシュートが立ちはだかる。まどかを守り戦うほむらだったが、スコノシュートには敵わず、まどかを連れ去られてしまう。

　まどかが目を覚ましたのは、見滝原市の工場区画だった。そしてハコの魔女の結界にとらわれるまどか。そんなまどかを助けに現れたのは魔法少女になってしまったさやかだった。活躍するさやかを見ながら、さやかに何もしてあげられなかったと絶望するまどか。まどかとさやかの前にボロボロになったほむらがたどり着き、こうなった以上危険だからさやかには何も話すなと告げてほむらは倒れるのだった

　そんな一同の姿を遠目に見る姿があった。彼女たちは佐倉杏子と千歳ゆま。隣町の風見野から見滝原を狙ってきた魔法少女たちだった

・第5話

　ゆまはかつて両親を魔女に殺された少女だった。そんな彼女に在りし日の妹の面影を重ねて面倒を見ているのが今の杏子だった。

　さやかは恭介の腕が治ったことに喜び、久しぶりに彼の演奏を聴いて安らかな時間を過ごしていた。しかしマミもほむらも倒れて、見滝原で動ける魔法少女はさやかだけだった。二人の代わりになるためにとパトロールを始めるさやか。そんなさやかについていくまどか。

　街を守るために落書きの魔女の使い魔を攻撃するさやか。それを妨害したのが杏子だった。街を守るために戦うというさやかと、魔法少女が生きるためには魔女から手に入るグリーフシードが必要なのだから、使い魔など攻撃するなと杏子は言い放つ

　互いに譲れずに戦うが、実戦経験豊富な杏子に敵わず倒れるさやか。杏子はゆまに、確実に魔女を狩り、グリーフシードを手に入れろ。それが魔法少女が生きるための鉄則だと言い放ちさやかにとどめを刺そうとする

　そこにボロボロのほむらとマミが乱入しなんとかさやかを助けるが、逆に杏子に三人まとめてとどめを刺されそうになる。しかしゆまがそれを良しとせず逆にほむらとさやかとマミを一瞬で回復してしまう。

　怒る杏子に、自分は杏子の助けになれればそれでいいと叫ぶゆま。そして杏子も本心ではマミを助けたいということを教えるゆま。杏子はそんなことは関係ないとばかりに戦おうとするが、マミがここは私に任せてほしいと杏子と対峙するのだった

・第6話

　マミと杏子の対決は、マミの勝利に終わった。杏子はマミに昔語りを始める。ゆまが杏子を助けるために美国織莉子にそそのかされて魔法少女になったこと。そしてゆまが使える縄張りを用意するために、ゆまを魔法少女にした織莉子に落とし前をつけるために見滝原に来たことをを明かす杏子。マミはそんな杏子の話を聞いて杏子は昔から変わっていないのだと知り、杏子・ゆまと停戦することを提案するのだった。

　一夜明け、病院の屋上で停戦の話をするまどかたちの前に、スコノシュートが現れた。そしてスコノシュートの力により、一同は崩壊した見滝原に飛ばされてしまうのだった。

　崩壊した見滝原での激闘の末、辛くもスコノシュートを撃破するまどかたち。だが、限界まで魔力を使い切ったスコノシュートのソウルジェムが崩壊した刹那、アルティメットまどかが現れる。スコノシュートを円環の理へと導こうとするアルティメットまどか。だが、突如スコノシュートがもう一人現れ、ほむらから奪ったリボンでアルティメットまどかを拘束してしまう。拘束されたアルティメットまどかはソウルジェムへと姿を変え、スコノシュートはまどかにそのソウルジェムを投げ渡しいずこかへと消え去ってしまう。

　残されたスコノシュートのソウルジェムはグリーフシードへと変化し、彷徨の魔女へと変化してしまう。魔法少女の行きつく先が魔女なのかと心が折れかけるマミだったが、杏子とゆまのお陰でなんとか自分を保つ。しかし彷徨の魔女は強力であり、マミたちでも倒せないほどだった。

　そのときスコノシュートから渡されたソウルジェムが輝き、まどかを魔法少女へと変身させる。変身したまどかは圧倒的な力で彷徨の魔女を退けるが、キュゥべえは変身したまどかは魂がソウルジェムに変化しておらず、ほかの魔法少女とは根本的に違う存在であると告げた。そしてまどかたちは再び病院の屋上へと戻されてしまう

　混乱する中、さやかはほむらに自分たちはいつか魔女になるのかと尋ねた。肯定するほむら。しかしかつてほむらがいた世界では、魔女になる前に円環の理に導かれて消滅するはずと答え、自分が崩壊した未来の見滝原から来たことを告げる

　そしてなぜ自分のいた未来で世界が崩壊したのかを語り始めた。かつて人類は魂を物質化する技術、すなわちソウルジェムの技術にたどり着き、それはイマジカと呼ばれる物質だった。しかし暴走したイマジカが地球上のあらゆる魂を喰らい始め、生物が生まれなくなった結果、地球は衰退したということを教えるほむら。そのイマジカがあった場所が先ほどスコノシュートと戦った場所イマジカショック・グラウンドゼロであると告げた。

　驚愕し、未来がないということに恐れる一同だったが、ゆまとまどかの説得でこれからは魔女にならないように生きていこうと決める。しかしさやかだけは影が消えないのだった

・第7話

　魔法少女の真実を知ったさやかは、せめて他人を救うための魔法少女であると決意して戦おうとしていた。そんなさやかの危うさを知るほむらは、杏子とゆまにさやかの監視を依頼する。さやかと話し、さやかは魔法少女になり、その真実を知ったことで自分を見失っていると悟る杏子。そんなさやかを助けねばならないと杏子は決意した

　杏子からさやかの状態を知り、なんとかさやかを助けたいと考えるまどか。腕が治る前にさやかに対して吐いた暴言を後悔する恭介。そして助けたいと思うならときにはぶつかることも必要だという詢子。彼らの気持ちを考え、まどかは一つの決意をするのだった

　一方危なげながらも魔女退治に動くさやか・杏子・ゆまの前にキュゥべえが現れた。本当に魔法少女はいずれ魔女になるのかと問う杏子。肯定するキュゥべえ。キュゥべえは悪びれずにこれは宇宙のために必要なことだと答えた。宇宙には様々な文明がひしめき合い、宇宙のエネルギーが徐々に枯渇していっており、このままではいずれ宇宙の熱的死を迎えると答えるキュゥべえ。そのために魔法少女が絶望して魔女になるときのエネルギーが必要なのだと続けるのだった。

　影の魔女の結界の奥で、影の魔女と対峙するさやか・杏子・ゆま。一瞬の隙を突かれたゆまを咄嗟にかばうさやか。そして腹を貫かれるほどの大ダメージを受けても痛みを消せることに気づいたさやかは自分がもう人間でないと気づくのだった

　翌日、仁美から恭介に告白すると聞かされるさやか。どうしたらいいのかと悩むさやかにまどかは恭介と向き合うべきだと諭した。そんなことはできないと拒絶するさやかに対し、殴ってでも恭介のもとへと連れていくと宣言するまどか。

　初めての親友同士の戦いはまどかの勝利に終わり、さやかは恭介の家の前に落ちていくのだった

・第8話

　恭介と向かい合うも、言葉が出てこずに恭介の前から逃げ出してしまうさやか。そんな二人を見て、杏子は魔法と魔法少女のことを恭介に話す。杏子の話を聞き、さやかの願いが自分を助けることであったと悟る恭介。恭介はさやかを探すが見つからず焦りばかりが募っていく。

　そんな恭介に告白する仁美。そのことで初めて自分にとってさやかがかけがえのない存在であることに気づく恭介。その想いに気が付き仁美は静かに身を引くのだった。

　自棄のように魔女を狩るさやかの前にまどかとほむらが駆け付け、落書きの魔女を倒して、まどかとほむらは恭介のところへ向かうようさやかの背中を押した。そして杏子は恭介を見つけ、これからさやかと付き合っていく覚悟を問うた。うなずく恭介をさやかの前に連れていく杏子とゆま。

　互いの気持ちを確かめ合った恭介とさやかは、静かに心を通わせるのだった。

・第9話

　1か月前、美国織莉子と呉キリカはスコノシュートと戦い、重傷を負わされ、スコノシュートの手によって結界に封じ込まれていた。何とか結界から脱出するもまどかがすでに魔法少女になっていることを知る織莉子。キリカを情報収集に見滝原中学校に向かわせ、織莉子は情報集めに向かうのだった。

　杏子とゆまはもう一つの目的である織莉子のことを恭介から聞き、織莉子の家に行くために見滝原駅に来ていた、そこに鳥籠の魔女が現れ、通りがかった仁美を魔女結界に取り込んでしまう。杏子とゆまの活躍で魔女は撃破された。

　放課後、マミは偶然キリカを助け、恩人として慕われてしまう。当惑するマミだったが、突如彼女たちを猫の魔女が襲う。変身して共闘し、猫の魔女を撃破するマミとキリカ。しかし猫の魔女を倒した後、キリカがまどかの仲間であるのなら消えてもらうとマミを襲った。

　キリカとマミの戦いはマミの勝利に終わり、キリカにとどめを刺そうとするマミだったが、織莉子の乱入により織莉子とキリカには逃げられてしまうのだった。

・第10話

　　杏子とゆまは仁美に案内され、織莉子の父親の事務所跡を訪れていた。そこで怪我をしている織莉子とキリカに会い、顔を隠していた織莉子に気づかずにゆまが治療してしまう。織莉子は杏子・ゆま・仁美の3人を家に案内した。そしてまどかが魔女になれば最悪の魔女となり世界は滅ぼされると織莉子。そのためにはまどかを殺して魔女にさせないことこそが唯一の世界を救う方法であると説いた。杏子はそれに対し、友人を殺すことは許さない、ゆまを魔法少女にした落とし前はつけさせてもらうと拒絶する。

　杏子・ゆま対織莉子・キリカの戦いは杏子たちの勝利で終わった。駆け付けたまどかは、自分はソウルジェムに魂を移していないので魔女にはならないと説明した。そして織莉子はスコノシュートの手によって予知が狂わされていたことを悟った。なら自分の生きる意味はどこにあったのかと嘆く織莉子に対し、杏子、恭介はその答えは自分で見つけろと返し、まどかはなら自分たちとともに戦わないかと提案した。

　織莉子とキリカは贖罪も込めてその提案に頷くのだった

・第11話

　ワルプルギスの夜。かつてほむらが何度も時間遡行を繰り返し倒そうとした最強の魔女。見滝原市にワルプルギスの夜が近づいていた。まどかたちはワルプルギスの夜を倒すために共同戦線を張った。

　そしてワルプルギスの夜との戦いが始まる。ほむらの作戦が功を奏し、ワルプルギスを追い詰めていく。だがワルプルギスの夜が本気を出し、まどかたちは一瞬のうちに形勢逆転されてしまう。追い詰められたまどかの前にスコノシュートが現れ、本来の力を解放せよとまどかに迫る。意識を失ったまどかは円環の理へと飛び、そこでアルティメットまどかと出会う。アルティメットまどかに促され、再び見滝原へと帰還するまどか。まどかは真の力を解放しアルティメットまどかへと変身した。その力によりワルプルギスの夜を撃破したまどか。

　そんなまどかたちの様子を見つめるスコノシュートの前に円環のさやかと百江なぎさが現れた。円環の理から持ち去ったまどかの力を返してもらうと言う円環のさやかに対し、すべてはもう終わっていると答えてスコノシュートは去っていった。

・第12話

　ワルプルギスの夜は撃破され、見滝原は多大な被害を出しながらも生き残った。そしてクリスマスを迎えようとしていたある日、街にヴァイオリンの音色に乗せた讃美歌が響き渡る。恭介とさやかが歌の練習をしていたのだった。恭介は、まどかたちに見滝原市の復興支援を兼ねたクリスマスコンサートに出てくれないかと頼んだ。

　その時、街に突如として大量の魔獣が現れた。困惑しながらも魔獣を迎撃するまどかたちだったが、魔獣たちの大本にいたのはイマジカを持ったミッチェル・ノートルダムとスコノシュートだった。そしてまどかが魔女化した姿である最悪の魔女を召喚し、まどかたちに襲い掛かってくるのだった。だが奮戦空しくまどかたちは最悪の魔女に吸収されていってしまい、その中で待っていたのはミッチェルとスコノシュート、そしてキュゥべえだった。

　ミッチェルはかつてキュゥべえが語っていた宇宙の熱的死について話し出した。この宇宙の知的生命は進化の果てに惑星と一体化し、一つの生命が一つの意思をもって生きていること、そして他の生命を求めて対話の光と呼ばれる高出力のビームを宇宙規模で撃ち合っていることを教えた。そのエネルギーは膨大なものであり、発射の時には多くの恒星からエネルギーを吸収して放っているのだという。対話の光の多用は急速な宇宙のエネルギーの減衰をもたらし、宇宙の熱的死へと近づいているとミッチェルは述べた。

　さらに恐るべきことを述べる。まどかたちが生きていた世界は過去ではなく、ミッチェルがイマジカの中で作り出した魔女結界と同じものであり、まどかたちはそこの住人であるということだった。そこでミッチェルはアルティメットまどかのいる円環の理へとつなぐためにほむらの知る情報から再現したかつてのまどかによって改変される前の魔女が生まれる宇宙を作りだした。さらにまどかへと近い因果を持つさやか、マミ、杏子、ゆま、織莉子、キリカ、そしてほむらを集め、まどかを通じて円環の理へと繋がり、その力を奪取することに成功したのだという。

　ならミッチェルは何者なのか？まどかは尋ねた。ミッチェルはもともと普通の魔法少女であった。彼女の願いは父である科学者オイフォーリン・ノートルダムの力になるために全人類の知識を集めたデータベースを手に入れることだった。だが、ミッチェルは戦いの果てに力尽き円環の理へと導かれてしまった。絶望するオイフォーリンが手に入れたのは、ミッチェルが残したデータベースだった。そのデータベース、全人類の知識の集合体「マギア・ユニヴァース」にアクセスすることができるなら、その中にミッチェルの知識もあるはず。ならばミッチェルを甦らせることも可能ではないか。そう考えた結果オイフォーリンがたどり着いたものが魂を結晶化する技術であるイマジカであった。イマジカの力を使いミッチェルをマギア・ユニヴァースから召喚することに成功したオイフォーリン。だがその余波で見滝原は消し飛び、人類もやがてイマジカの影響で滅び、オイフォーリンは真っ先に魂を食われ消滅してしまったのであった。

　残されたミッチェルは何をすべきか考えた。そして考えたのが円環の理を使い、対話の光を使ってインキュベーターの星へ行くことだった。そのためにまどかたちのいた世界を発射台とし、対話の光を放ち宇宙全土を取り込むイマジカショックを起こすとミッチェルは言い放った。

　そんなことはさせないと叫ぶまどか。だがミッチェルは無常にももう遅いと答える。すでにまどかたちのいた世界は消え去っており、いままどかたちのいる空間は対話の光の中なのだと

・第13話

　キュゥべえの星、惑星インキュベーターにたどり着いたまどかたち。すでに地球にもイマジカの中にもまどかたちの世界は残っていないのだと知り、消沈するまどかに、キュゥべえは話があると告げるのだった。

　キュゥべえは世界を再生したくないかとまどかに尋ねた。キュゥべえは魔法少女システムと対話の光を使い、地球をかつてまどかたちがいた「魔女が生まれる世界」に再生しようと企んでいた。しかし円環の理があるのだから魔女が生まれることはないと返すほむら。キュゥべえはそれすらもミッチェルのイマジカの技術を使えば解消することができる。君たちは永遠に魔女を生み出す家畜となれ、その代わり世界をあげようとまどかたちに迫った。だがミッチェルはどうするのだとキリカは尋ねた。キュゥべえはミッチェルは高次元の存在がイマジカを介して降臨しているに過ぎない。イマジカショック・グラウンドゼロにあるイマジカを破壊してしまえばミッチェルも消え去ると答えた。

　キュゥべえの答えを拒絶するまどかたち。だがキュゥべえはすでに魔法少女システムと対話の光による地球の再生を始めていた。戦闘用の個体を用意し、まどかたちに襲い掛かるキュゥべえ。全員でそれを迎撃するまどか・さやか・ほむら・マミ・杏子・ゆま・織莉子・キリカ。

　そしてまどかたちは勝利し、対話の光の発生装置にたどり着いた。まどかはシステムに願った。「キュゥべえの願いに加えて魔獣が生まれず・魔法少女が生まれず・グリーフシードの効果を地球に持たせる」という世界を。これにより地球が再生したうえで魔法少女システムのない世界ができると。そしてあとは地球にいるミッチェルを倒し、イマジカを破壊してミッチェルを退けると。

　キュゥべえはそんなことをしても宇宙の熱的死は避けられないと返す。まどかはそれにも「円環の理にいる私に会えば、それすらも解消できる」と言い放った

　そしてまどかたちは再び対話の光に乗り、地球を目指すのだった

・第14話

　対話の光によって地球に戻ってきたまどかたち。だがミッチェルの手によって量産されたスコノシュートが地球にバリアを張り、対話の光を退けてしまう。それに巻き込まれてしまうまどかたち。そんな彼女たちを救って円環の理に退避させたのは円環のさやかとなぎさだった。一同を迎えるアルティメットまどか、円環のさやか、なぎさ。

　そしてまどかはアルティメットまどかに自分のもう一つの願いを語った。それは「宇宙を繋ぐネットワークを作ること」だと。対話の光を使わなくても宇宙の知的生命が対話できる世界を作りたいと。アルティメットまどかはその願いに頷いた。神というのはその存在意義によって定義される。魔女を消滅させる魔法少女システムが滅びる以上、自分も消え去る。最後の力を以ってその願いに答えるというアルティメットまどか。それではいままであなたに会うために戦ってきたのは何だったのかと嘆くほむら。だがアルティメットまどかは言った。新しい世界で新しい私を救ってくれと。ほむらちゃんが覚えてくれるなら、それで私はいいと。

　そしてまどかたちに力を託すアルティメットまどか、円環のさやか、なぎさ。一同は再び地球に降り立ち、ミッチェルと対峙する。最後の言葉を交わし、戦い始めるまどかたちとミッチェル。

　最後の戦いの末、まどかたちはミッチェルを倒した。ミッチェルは再び現れたアルティメットまどかに返し、宇宙を繋ぐネットワークが生成されていく。そしてキュゥべえも魔法少女システムが消えた以上、この星に用はないと去ると告げた。こんどはネットワークを整備することを存在意義とするという。空へと去っていくアルティメットまどか、ミッチェル、キュゥべえ

　今ここに、最後の魔法少女物語が幕を下ろしたのだった。

・エピローグ

　時は流れ、やがて人類は宇宙を繋ぐネットワークを発見する。そしてネットワーク解析のための宇宙戦艦が完成し、他の知的生命と対話するための船出が始まった

　宇宙船の操縦桿を握るまどかとほむら。艦隊の司令官として激を飛ばす織莉子、その側に控えるキリカとマミ。地球文化の継承者として乗員に選ばれたさやか、杏子、ゆま。

　宇宙での新しい対話の時代が、始まったのだった

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　END